

明したる後に完成すべきであらうから地質學者としての著者に求むることは或は當らざる所であらう。

我々は本書の刊行を迎へて慶びに堪へぬ。本邦地質學者の必ず再三熟讀玩味すべき大著である。(下)

O. Imori and T. Yoshimura: *Geographical Distribution of Certain Minerals in Japan*. (Sci. P. of Inst. Phys. Chem. Res., Vol. 10, pp. 5—46, 1929)

昭和四年十月までに種々の文獻に現はれたる日本産鑛物を化學成分によりて分類したる産地表なり。稀有元素を含む鑛物につきては多くの文獻を掲げたり。鑛物學者、化學者にとりて利用するゝ事多かるべし。(春)

新著即報

○地學雜誌 第四一年第四八一號 三月

出雲笹子に於ける輝綠岩中のダイオライト・オブナイト

脈に就きて(一)(山口謙次)

洪積世後の海岸線の成因(序論)(東木龍七)

本邦油田に於ける溫泉(四)(千谷好之助)

十和田湖(二)(木下龜城)

河南省内地巡見記(一)(渡邊久吉)

泉及び河川の起源(抄譯)(二)(石井清彦)

○理化學研究所彙報第八輯第三號 三月

北投石並に邦産褐釐石及セノタイムの放射性成分に就いて(吉村恂)

○朝鮮炭田調査報告 第四卷 昭和三年十二月 大正十二年

及十三年度試鑛作業報告(内田鯉五郎・植田勳・魚谷信弘)

△福岡縣地質圖 二十五萬ノ一 金尾宗平監修 大阪市北區相生町佐藤郷土地圖研究所發行 昭和四年二月 定價一圓

◎The Thirsty Earth. The Theory and Practice of Irrigation in all Countries. By E. H. Carrier. 1928.

Christophers. London 5圖75(先著)

◎Geography of North America. By George J. Miller and Almon E. Parkins. 1928. John Wiley, New York.

◎Leben als Symbol. Metaphysik einer Entwicklungslehre. Von Edgar Dacqué. 1923. R. Oldenbourg, München.

○Proceedings of the Imperial Academy, Tokyo. Vol. V. No. 2. Feb. 1929.

Ordovician Fossils from Korea and South Manchuria, (Teichi Kobayashi)

○The Quarterly Journal of the Geological Society. Vol. LXXXIV, No. 336. Dec. 1928.

A Re-Excavated Cretaceous Valley on the Mongolian Border. (George Brown Barbour)

◎世界地理風俗大系 第四卷(南洋)執筆者石橋五郎 井上

雅二 鷗飼恒一 大島正滿 大山周三 佐藤弘 新村出

高橋惇 運塚麗水 徳田貞一 中谷正造 三吉朋十 吉

田信友 渡邊萬次郎

新光社發行 三月 豫約價二圓八〇錢

◎科學叢報 第一二卷第四號 四月

國土防空(堀丈夫)

英佛海峽大トンネルの計畫(渡邊貫)

中世の都自由山市ダメンツェ

◎地質學雜誌 第三六卷第四二五號 二月

信濃上水内郡小市産の所謂葡萄石に就いて(山田節三)

陸中宮守附近の過鹽基性岩に就いて(近藤信賢)

◎水曜會誌 第五卷第一〇號 三月

樺太産海綠石と其礦床に就いて(山田賀一 上治寅次郎)

◎Bulletin of the Geological Society of China.

Vol. VII. No2. Sept. 1928

On a fossil freshwater Crayfish from eastern Mongolia (Victor Van Strahlen)

Geology of Chung Shan and its bearing on the

supply of artesian water in Nanking. (G. Y. Hsieh)

Geology of Tan Shan and its vicinity. (C. Y. Hsieh

& K. Chang)

Rectangular graphs as applied to the proximate

analyses of the Chinese Coals. (H. S. Wang)

On the composition of a Pennine-Carboniferous Coal

in North China. (K. Asada)

A Preliminary Study on the chemical and mineralogical composition of Loess. (H. T. Lee)

◎The Geographical Journal. Vol. LXXIII. No. 2.

Feb. 1929.

Captain James Cook and the Sandwich Islands.

(Henry Newbolt)

Captain Cook and the Founding of British Power

in the Pacific. (J. Holland Rose)

Cook as an Hydrographical Surveyor. (H. P. Douglas)

◎岩石礦物礦床學 第一卷第四號 四月

六連島産雲母玄武岩に就いて(神津徹福 吉本文平)

雲母の溫度上昇に伴ふ光の吸収に就いて(可兒弘一)

噴出岩の總組成と其石基の化學成分との比較資料(山口

鎌次)

低溫加熱の本溪湖石炭に及ぼす影響(2)(鶴見志津夫)

カオリンの化學成分(瀬戸國勝)

結晶作用によりて生ずる壓力(火山の活動及び礦脈生成

の二原因)(神津徹福)

◎礦業 第六卷第六一號 三月

朝鮮の有煙炭(市村毅)

◎朝鮮鐵區一覽(昭和四年一月一日現在) 朝鮮總督府殖産局

鐵務課編 朝鮮鐵業會發行 三月 定價一圓

○Dry Distillation of some Japanese Coals. (Chōzō Iwasaki and Kunazō Sasaki) *The Technology Reports of the Tohoku Imperial University*. Vol. VIII, No. 2 1929

◎The Geology of Petroleum and Natural Gas. By Ernest Raymond Lilley. D. Van Nostrand Co. New York 1928. 13Yen (丸善)

○科學知識 第九卷第四號 四月

南洋の泰景色(福地信世)

○地理學評論 第五卷第四號 四月

湖水中に於ける酸素含量と水素イオン濃度の水平分布

(上)(吉村信吉)

吾が國に於ける大都市と地方の死亡率について(今井文夫)

蜜柑の生産地帯(上)(川口丈夫)

ゴム生産地とアメリカ合衆國(佐々木彦一郎)

○地理教育 第一〇卷第一號 四月

天文教材の選擇と天體距離測定法の伸展(關口鯉吉)

地學上より見たる甲斐の一史蹟(石原初太郎)

相州江の島の地質(藤本治義)

阿蘇火山最近の火山活動に就いて(上)(津屋弘遠)

シンカボールの重要性(玉城肇)

日本群島の三角洲の研究(二)(東木龍七)

南アメリカ經濟地理(三)(下川禮佐)

東京市の地形と交通線(上)(淺井治平 山口孝義)

○歴史地理 第五三卷第三號 三月

利根運河開鑿の功勞者廣瀬誠一郎(長南倉之助)

江戸時代に於ける農村人口増減の一二例(島羽正雄)

雜 報

○廬山の遠望

(挿繪説明)

廬山は九江から南十五哩、海

拔三千五百呎、冬期と雖も華氏十五度を下らず、七八月の最高七十五度、最低六十六度であるから、漢口及長江一帯の外人の避暑地となつた。そこを牯嶺といふ。この圖はその牯嶺にゆく田舎道の山麓である。江南一般にかうした掛橋、眼鏡橋が多い。橋と塔とは、その民屋の粗末なのに比べて、驚くばかり立派なものが多い。古い時代の文化を象徵するものである。江南の民屋には窓が少い。切妻瓦葺である場合には、極めて頑丈な防火壁をつけるのであるが、こゝまで山の中に入ると、さうしたものが無くなつて、かやうに「ケラバ」を出した日本の長屋風な土蔵造りになる、この川の水は澄んでゐる。夏は田に灌ぐので、田圃の畦や大きな、餘程我國の田舎に